



インターネットでの情報提供	
提供予定日	9月14日

平成22年9月13日 都道府県記者クラブ・県政記者クラブ・岐阜経済記者クラブ・多治見市政記者クラブ 同時配布資料			
担当課	担当	担当者	電話番号
(財)岐阜県産業経済振興センター	デザインセンター	村井 康孝	058-277-1081
商工労働部モノづくり振興課	モノづくり担当	川西 和彦	直通058-272-8362 内線3097

産業観光ツアー『モノづくりと出会う旅』を実施します！！ ～ 岐阜県とMIJP(株)との連携事業 ～

岐阜県とメイド・イン・ジャパン・プロジェクト(株) (以下「MIJP」という。)との包括的な連携協力協定(平成22年2月24日締結)に基づく連携事業として、MIJPが実施するニッポンブランドマイスター講座(※)と連動し、首都圏の高感度な消費者、専門家、メディアを県内のモノづくりの現場へご案内する産業観光ツアー『モノづくりと出会う旅』を実施します。

第2弾となる今回のツアーでは、多治見市・土岐市・瑞浪市的美濃焼陶磁器産地を巡り、大量生産型企業や一品生産型の窯元・作家、産地を支える分業制など、美濃焼の現場を見学し、作り手の技と心に触れていただきます。また、専門家から美濃焼の歴史や文化について学ぶとともに、産地の次世代を担う作り手との交流を通じ、美濃焼に対する理解を深めていただきます。

ツアーを通じて、岐阜のモノづくりファンの拡大を図るとともに、首都圏での効果的な情報発信を期待しています。また、参加者の声を地域のモノづくりにも活かしていきます。

※ニッポンブランドマイスター(NBM)講座

MIJPが主催。首都圏のモノづくりに関心の高い高感度な消費者、専門家、メディアを対象とした、日本の優れた「モノづくり」を学ぶ講座。

記

1. 実施期間 : 平成22年9月18日(土)～19日(日) 1泊2日
2. 訪問予定地 : 瑞浪市、土岐市、多治見市
3. 参加者数 : 20名
4. ツアー行程 : 下記のとおり

＜9月18日(土)＞	
～10:00	JR瑞浪駅集合
10:30～	①小田陶器(株)(大量生産/瑞浪市)
12:00～	②昼食・産地周遊
14:00～	③分業現場
	・カネアツ釉薬(釉薬屋/土岐市)
	・三鈴製型所(型屋/土岐市)
	・井野(圧力鋳込屋/土岐市)
17:00～	④好山陶苑見学(作家・中量生産/土岐市)
18:30～	⑤交流会・夕食(澤千/多治見市)
	宿泊(オースタット国際ホテル・多治見市)

＜9月19日(日)＞	
9:00～	⑥幸兵衛窯(作家・少量生産/多治見市)
11:00～	⑦岐阜県陶磁資料館(多治見市)
11:30～	⑧岐阜県現代陶芸美術館・昼食(多治見市)
15:00～	⑨オリベストリート散策(多治見市)
※①～⑨の内容については以下に記載	

5. ツアー内容

外館和子氏が講師として同行し、ニッポンブランド・マイスター講座「創造のシステムから見た日本の『うつわ』」を実際に体感します。それぞれの見学地における創造システムのポイントや、美術館での学芸員とのセッションによる講義など、様々なスタイルのレクチャーを受け、「考える視点」を学びます。

外館 和子(とだて かずこ) : 茨城県立つくば美術館主任学芸員

筑波大学卒業後、オハイオ州立大学TA留学。2002年 英国テート・セント・アイブスに日本キュレーターとして初めて招聘されレクチャーを行う。以後、ハーバード大学、SOFIAシカゴ他、海外で、数多くの講演等を実施。2009年4月、米国スミス・カレッジ美術館で講演。2009韓国陶磁器ビエンナーレ諮問委員。

[1日目 9/18 (土)]

①小田陶器(株)(瑞浪市西小田町2-100 TEL:0572-68-3175)

日本の高度経済成長とともに大量生産の陶磁器製造の礎を築いてきた小田陶器(株)を見学します。大量生産は、低価格化・量産化によって市場の形成・発展に大きく寄与してきました。その技術力の高さと繊細なモノづくりを見学しながら、高度成長における生産スタイルの推移等について伺います。

②昼食・産地周遊

古くから沢山の器を排出してきた町を、多治見PRセンターの案内のもと散策します。

③分業現場

美濃焼を支える分業現場である釉薬製造・型製造・圧力鋳込の現場を製造工程に沿って見学し、日本のモノづくりを支える分業システムについて考えます。

(カネアツ釉薬 土岐市駄知町2457-11 TEL:0572-59-1071)

((株)三鈴製型所 土岐市駄知町1063 TEL:0572-59-8379)

(井野 土岐市駄知町791-1 TEL:0572-59-3500)

④好山陶苑(土岐市駄知町1080-1 TEL:0572-59-2178)

普段使いの器をつくりながら、独自の創作活動を続ける好山陶苑を見学します。新しい美濃焼を模索しつづける好山陶苑に創作の源を伺います。

⑤交流会・夕食

明治34年創業の老舗料理店「澤千」にて、名物のうなぎ料理を囲みながら、次世代を担う陶磁器産地の作り手と器を通した「ニッポンのモノづくり」を考えます。

[2日目 9/19 (日)]

⑥(株)幸兵衛窯(多治見市市之倉町4-124 TEL:0572-22-3821)

徳川幕府の御用窯の指定を受けるなど、開窯200余年の伝統を受け継ぐ窯元・幸兵衛窯を見学します。人間国宝一加藤卓男氏作品の展示や、氏が収集した古陶磁資料館や工芸館などを見学するとともに、幸兵衛窯とこれからの美濃焼について伺います。

⑦岐阜県陶磁資料館(多治見市東町1-9-4 TEL:0572-23-1191)

資料館収蔵の貴重な作品を見ながら、日本古来の焼きもの「美濃焼」の歴史を学芸員から伺います。

⑧岐阜県現代陶芸美術館(多治見市東町4-2-5 TEL:0572-28-3100)

美術館学芸員の立花氏と外館氏の二人によるトークセッション「近代陶芸の歩み、そしてこれから」を聴講するとともに、美濃焼についてのディスカッションを行います。また、館内ギャラリーにおいて、陶芸の現代をテーマに19世紀以降の国内外の現代作品に絞り、個人作家の陶芸作品からモダンデザインの産業陶磁器など個性的な作品群を見学します。

⑨オリベストリート散策

明治期から昭和初期にかけて美濃焼の陶磁器問屋が軒を連ねたオリベストリートを散策します。

6. 今後の予定 : 今年度は、各回20名程度で、残り2回の開催を予定。

第3回 11月下旬(美濃和紙)、第4回 3月中旬(関刃物)

【参 考】

■メイド・イン・ジャパン・プロジェクト(株)

○日本のモノづくり文化を継承・発展させるために、地域の物産品や加工食品などの日本製商品流通させ、作り手が潤う仕組みの再構築をビジョンに据える流通事業者。

○店舗販売、インターネット販売、卸販売、展示会運営、営業代行、モノづくりコンサルタントなど、幅広い事業を通して日本製商品の「流通改革」を推進。

(住 所) 東京都港区赤坂9-6-30-112

(旗 艦 店) 東京ミッドタウン内「THE COVER NIPPON」(H19.4月開業)

(代 表) 赤瀬浩成氏